

世 界最高齢者の皆川ヨ子さん（114歳・上野）に7月2日、ギネスワールドレコーズ社（英国）から、町が申請していた「世界最高齢者の認定証」が届きました。5月に名誉町民第1号となったヨ子さんに、この日、名誉町民章と推挙状、ギネス社の認定証が浦田弘二町長から渡され、麻生渡県知事

からの「最長寿栄誉表彰」も贈られました。ヨ子さんは6月に肺炎で体調を崩して入院、退院して上野の特別養護老人ホーム「慶寿園」に戻ったばかりでした。少しお疲れの様子でしたが、初孫の安永昭俊さんから親族のみなさんに囲まれる中で、花束や町民章のメダルなどが贈られると、ニッコリ笑顔を見せました。

長寿世界一の皆川ヨ子さんに 初の名誉町民章とギネス認定証



↑福智町第1号となる名誉町民章とギネス認定証が掲げられ、笑顔を見せた皆川ヨ子さん。退院間もなく体力が落ちていましたが、今ではご自分で食事をとられ、体調も順調に回復へと向かっているそうです。

町長日誌

▼今年、6月13日に梅雨入りとなった。しかし、梅雨とは名ばかりで、

雨の降らない日が続き、町内の一部地域では、水稲の成長に重大な影響を及ぼしかねないほどの状況になっていた。私も、現状の把握をするために、日ごろの散歩コースを変更して、特に状態の悪い地域に足を運んでみた。田には全く水気がなく、ヒビ割れもかなり深刻で、前途の多難さそうかがわせた。農家のかたにとっては、雨乞いでもして、恵みの雨をという心境だったに違いない▼そんな矢先の7月2日未明、稲光とともに待望の雨！まさに、急場を凌ぐ天の配剤であった。まるで、タイミンクを見計らったかのように田畑を潤し、「慈雨」と呼ぶにふさわしいくらい安堵感を、私たちに与えてくれた。幸い、その後も、台風4号の接近等もあり、困らない程度の雨量が確保できている▼苦しい時の神頼みとは、よく言ったもので、科学万能の世の中ではあるが、「人知を越えた何か」に頼りたくなる気持ち——これは万国共通のものだと思う。いずれにしても、喉元過ぎれば熱さを忘れる、ということにならないよう、今回の事態を教訓に、不断の対策を心がけていきたい。また、そのことが、「人知を越えた何か」に対する、せめてもの恩返しだと考えている。

浦田弘二